

令和元年度第4回香美市未来の森づくり委員会会議録（要約）

|           |   |
|-----------|---|
| 1.開催日時、場所 | 令和元年10月31日（木）午後2時00分～<br>香美市立中央公民館2階会議室   |
| 2.出欠、傍聴者数 | 出席者12名 傍聴者4名  |
| 3.議題      | ①委員会からの報告について<br>②各部会からの報告について<br>③次年度森林環境譲与税事業について<br>④本年度の専門部会の開催予定について   |
| 4.会議内容    | <p>①委員会からの報告について<br/>         委員会は第1回を4月18日に開催し、第2回を5月23日、第3回を6月25日、第4回目となる今回の10月31日の計4回開催している。また、7月18日には視察研修として中村技術高等学校及び高知おおとよ製材を訪問した。</p> <p>委員会での協議内容については第2回委員会で5つの主な検討課題を定めた。(1)香美市産材のブランド化(2)担い手の持続性の確保(3)香美市産材を活用した普及展開(4)広報、PR活動による普及展開(5)それぞれの取り組みによる3年後、10年後に目指す姿を検討する、の5つの検討課題があり、第3回委員会においてこれらの検討課題を協議した後、以降の検討については専門部会で実施することとした。</p> <p>なお、第3回委員会の段階で未定となっていた担い手対策専門部会の委員について、担い手対策専門部会において人選を行い、森安正氏に就任を依頼して承諾を得た。今回の会から森安氏に参加していただいている。</p> <p>②各部会からの報告について<br/> <b>【森づくり部会】</b><br/>         高知県森づくり推進課が、香美市における森林情報整備委託業務を実施中である。その事業を通じて香美市が提供を受ける予定である航空レーザ測量成果の活用方法について部会で協議しており、来年度以降、当測量成果を活用するためのソフト及び周辺機器等が導入される予定である。</p> <p>また、航空レーザ測量成果を活用した森林のゾーニングの案についても部会で協議を行った。森林GISにより市内森林を樹種別に区別し、天然林は水土保持林とする。スギ、ヒノキが植えられている森林の内、林道が整備されている流域界とそうでない区域で区分し、林道が整備されていない流域の森林について、今後10年で施業するかどうかを検討する。施業するかどうかの判断は、現場の地形によって道が整備出来るか否かで判断することになると考えており、判断材料として、既設作業道の幅員データをGISに入力する必要があると考えている。</p> <p>なお、ゾーニングした森林の施業方法については、今後の検討課題とする。</p> <p>また、未整備林で良質材が出てくる可能性がある森林を抽出し、そうした森林の施業方法、支援方法等についても今後、部会で協議することとしています。</p> <p>なお、ゾーニングについてはその時代の山の価値に応じた区分を心がけたい。</p> <p><b>【市産材活用部会】</b><br/>         市産材活用部会では香美市産材のブランド化に向けた良質材の定義等について協議を進めている。その中で、今後の検討用資料として、高知県森林技術センターに森林簿上スギ、ヒノキの60年生、70年生、80年生以上の木が植えられている山林を色分けした図面の作成を依頼した。図面は完成し、森林技術センターから提供を受けている。</p> |

また、良質材生産に関する研修、調査を今年度中に実施する予定。

研修については、部会で話が上がった良質材生産地での現地研修を実施する予定。調査については2種類考えており、良質材生産地の生産者からの施業方針等の聞き取り及び香美市木材住宅支援事業等の施工業者から、通常使用している木材の仕様、仕入先等の聞き取り調査を実施する予定としている。また、震災対策として木材ストックの協議も進めていきたい。

前述した研修、調査を準備するため、11月以降も月1回程度部会を開催する予定である。

なお、来年度事業として森林技術センターでの良質材品質調査を検討していたが、来年度の実施は見送ることとした。今年度実施予定の調査の結果及び市内森林に関する航空レーザ測量成果の分析結果等を参考に、再度、調査の内容を検討する。必要であれば、来年度に県森林技術センターの研究課題として申請を行う。

#### 【担い手対策部会】

市が実施した市内大工に関する調査の結果、市内の大工は20年間育っていない実態が判明した。こういった状況で台風等により市内の住宅に大きな被害が出た場合、市内大工の平均年齢が高すぎる現状で対応は困難と考えている。

担い手対策部会では、杉浦委員と合同で林業関連の担い手対策について協議し、来年度事業として林業事業体に関する新規事業（林業担い手対策支援事業（仮称））を検討している。林業事業体の新規就業者雇用への支援に加え、新規就業者を育成する指導者の雇用も支援する予定。

林業事業体以外の大工、製材所の担い手に係る支援方法も検討したが結論は出ず、今後の検討課題とした。大工の担い手対策については、市産材活用部会で今年度実施予定の業者への使用木材に関する調査と併せて、業者の新規就業者雇用及び育成に関する考え方について聞き取り調査を実施し、結果を今後の検討に活用したいと考えている。また、製材所の担い手対策については、担い手支援の前段階として製材所が担い手を雇える環境を整えることが必要と考えている。市産材活用部会での市産材ブランド化及びそれに伴う商品の開発を先行して検討していきたい。検討を進めるために、現在大工にとって大きな存在となっているプレカット工場への視察も実施したい。

#### 【教育・普及PR部会】

教育・普及PR部会では、7月、8月、9月の3回、専門部会を開催した。主に、木のおもちゃプレゼント事業（赤ちゃん対象）、こども林業大学校（小中学生対象）の取り組みを通して、広くPR活動を行うという内容となっている。

木のおもちゃプレゼント事業では、「配っただけ」にならない工夫や、多様化する好みに対応して長く使ってもらえる製品のプレゼント方法などについて検討した。また、来年度からの事業スタートに向けて、本年度から準備を開始する予定である。

こども林業大学校では、魅力ある取組内容やカリキュラムの順序や内容について意見が交わした。来年度にプレ開催し、ミニチュアハウスを建ててみようという内容で検討している。

また、PR活動については、まずは独自の発信ツールを作るのではなく、既存の発信ツール（新聞・テレビなどのメディアや県や市の広報誌など）に取材依頼などを行い、市の取り組みを広めていくということになった。

#### ③次年度森林環境譲与税事業について

事務局から次年度予定している森林環境譲与税事業の内容（別紙：令和2年度森林環境税使途）を説明。

事業の内、市産材普及PR事業（公共施設に木製品を導入する事業）については補助対象の見直し等、来年度以降改善を協議することとした。未来の森づくり委員会で実施することも林業大学の予算については、普及PR部会内で協議したうえで修正を検討する。

④本年度の専門部会の開催予定について  
別紙（委員会開催予定）のとおり実施予定。

次回委員会は令和2年2月20日に開催予定。